

㊦ 参考文献

債権法改正前のもの

山本敬三『民法講義I総則〔第3版〕』（有斐閣, 2011年）

筒井健夫 = 村松秀樹編著『一問一答・民法（債権関係）改正』（商事法務, 2018年）

債権法改正後のもの

四宮和夫 = 能見善久『民法総則〔第9版〕』（弘文堂, 2018年）

佐久間毅ほか『民法I 総則〔第2版補訂版〕』（有斐閣, 2020年）〔山下純司〕

佐久間毅『民法の基礎1 総則〔第5版〕』（有斐閣, 2020年）

森田修「第二講 錯誤：要件論の基本構造を中心に（その1）」・「第三講 錯誤：要件論の基本構造を中心に（その2）」法学教室428号（2016年）66頁・429号（2016年）72頁（講座連載「『債権法改正』の文脈——新旧両規定の架橋のために」）

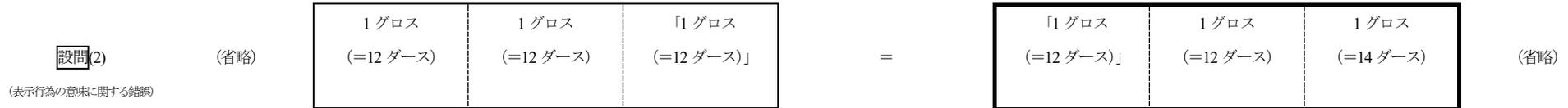
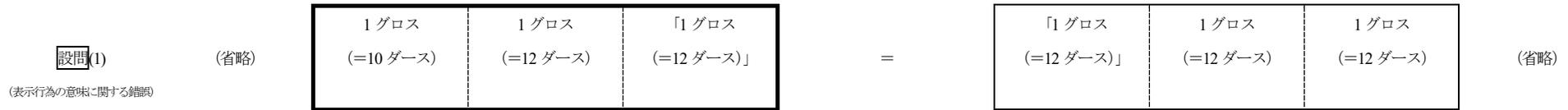
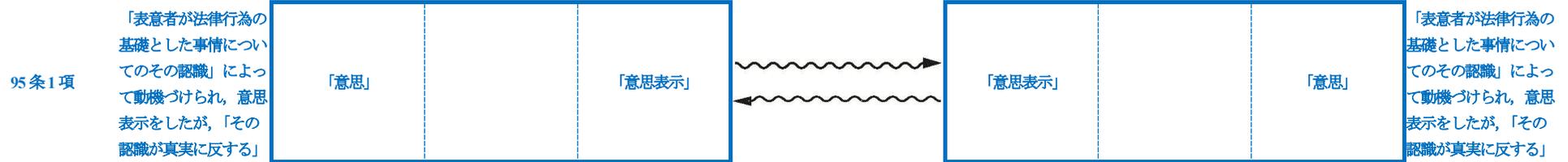
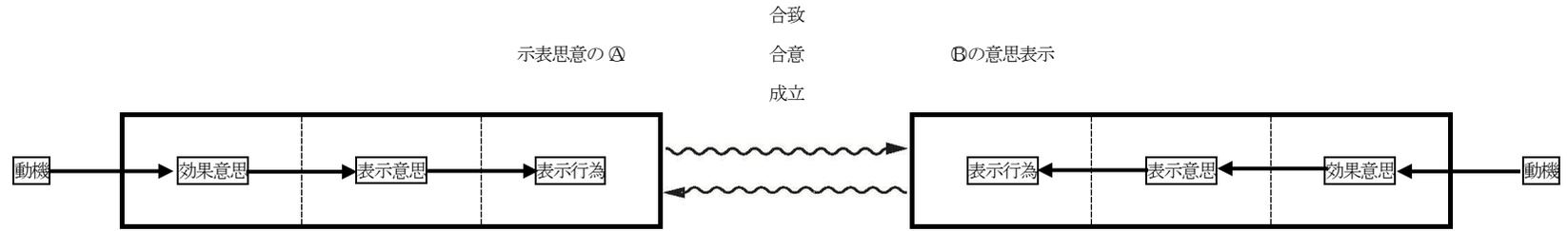
丸山絵美子「第2回 錯誤」法学教室464号（2019年）71頁（講座連載「ケースで考える債権法改正」）

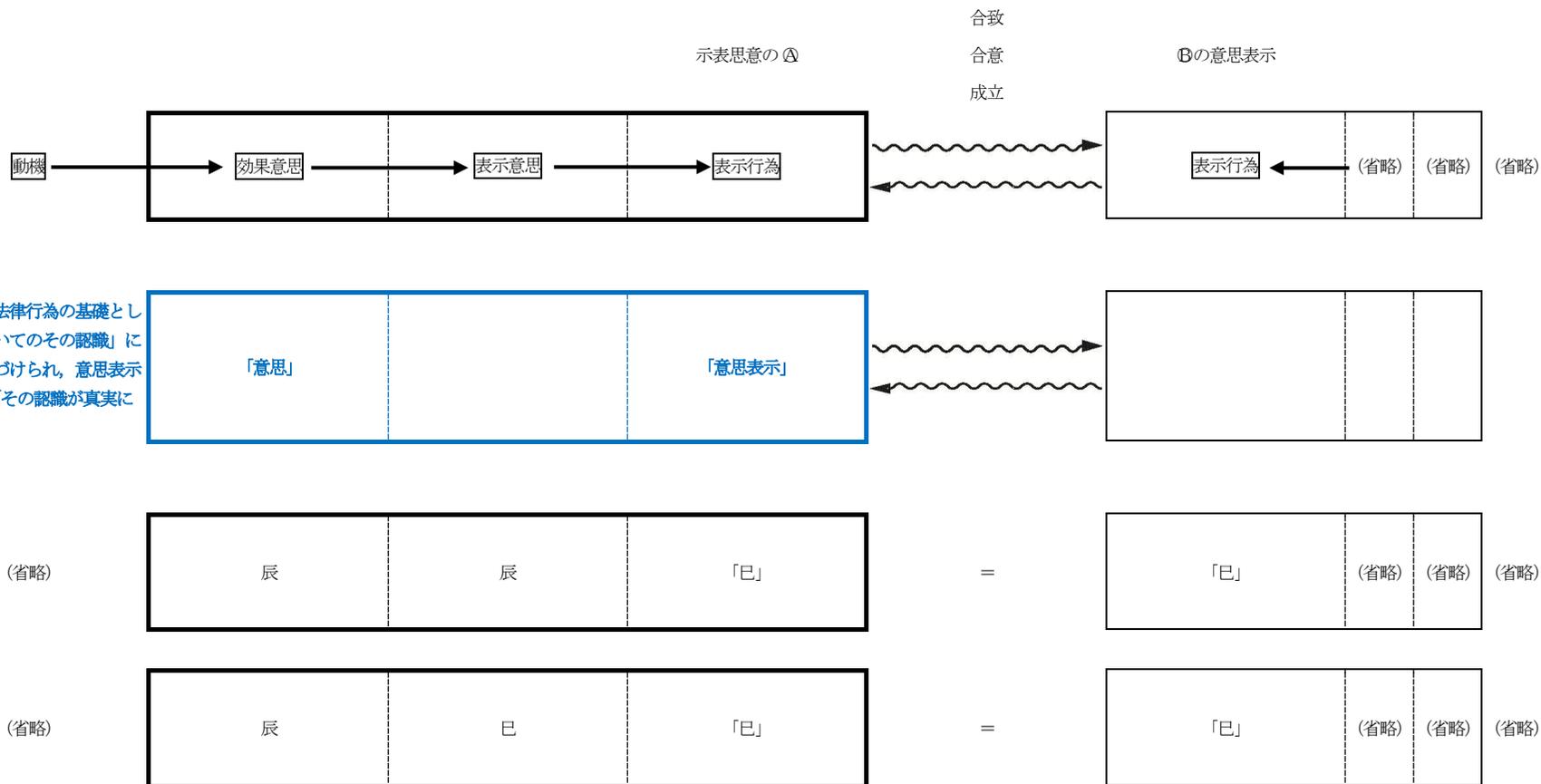
内田貴『改正民法のはなし』（東京大学出版会, 2020年）

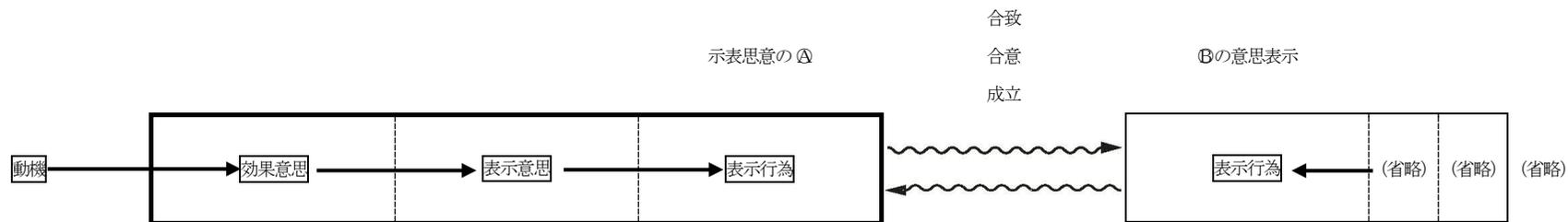
錯誤ははっきり言って難しいです。

大学の授業を受け、ひととおり学んでから（独学の方はごめんなさい。）、教科書、参考書にチャレンジするとよいかもしれません。まずは、ざっと読み、つぎに、精読、しかも、繰り返し、繰り返し、精読するよりほかありません。

こんなアドバイスしかできませんが、がんばって挑戦してみてください。







95条1項
「表意者が法律行為の基礎とした事情についてのその認識」によって動機づけられ、意思表示をしたが、「その認識が真実に反する」

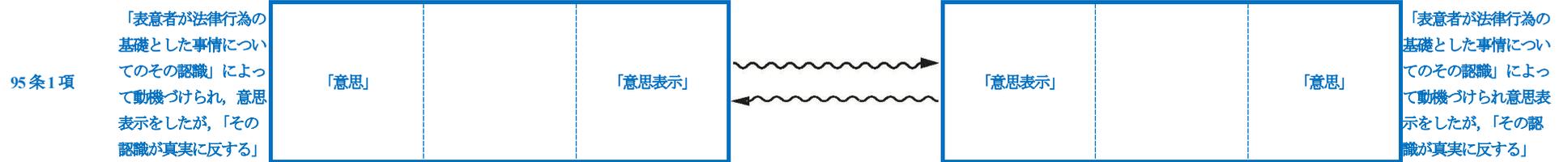
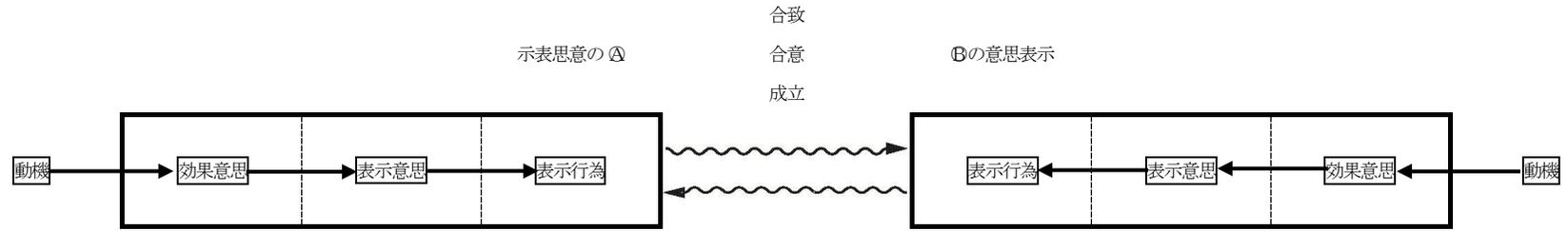


設問(7)
(表示上の錯誤)



設問(8)
(表示行為の意味に関する錯誤)





設問(9)
(表示行為の意味に関する錯誤)

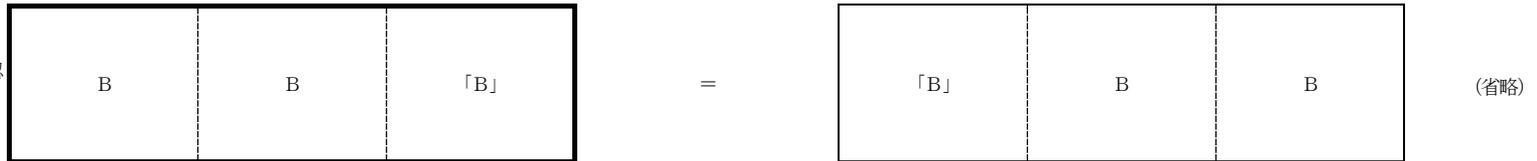


設問(10)
(表示行為の意味に関する錯誤)

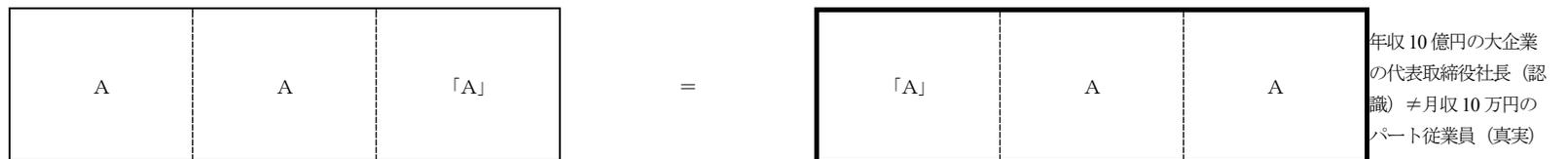


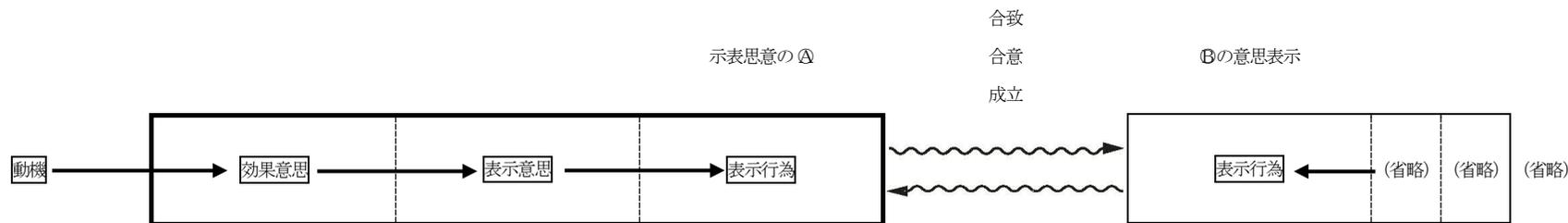
設問(11)
(基礎事情の錯誤)

年収 10 億円の大企業の代表取締役社長 (認識) ≠ 月収 10 万円のパート従業員 (真実)



設問(12)
(基礎事情の錯誤)





95条1項

「表意者が法律行為の基礎とした事情についてのその認識」によって動機づけられ、意思表示をしたが、「その認識が真実に反する」

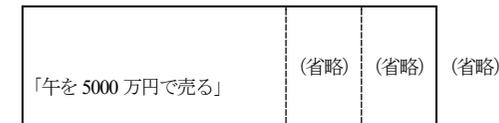


設問(13)

地下鉄の駅ができると思い違い(誤解)をして、



?



設問(14)

自分の子の婚約が破棄されているのを知らないで、



?

